

○“世の光”を拒む者たち：待ち受ける三つの現実

1. _____ (21-22)

※ヨハネ7:33-34

「そこでイエスは言われた。「まだしばらくの間、わたしはあなたがたといっしょにいて、それから、わたしを遣わした方のもとに行きます。あなたがたはわたしを捜すが、見つからないでしょう。また、わたしがいる所に、あなたがたは来ることができません。」

「自らに対して狂気の手を下した者たちの魂は、ハデスの最も暗い場所に受け入れられる。」(ヨセフス)

※ヨハネ10:18

「だれも、わたしからのちを取った者はいません。わたしが自分からいのちを捨てるのです。わたしには、それを捨てる権威があり、それをもう一度得る権威があります。わたしはこの命令をわたしの父から受けたのです。」

「彼らはその死において、いかなる慰めも平安も経験することなく、ただ暗い絶望だけを味わう。彼らが拒んだお方は、彼らが助けを必要とする時に傍におられない。彼らは自分たちの罪の内で死ぬのである。神の怒りがその上にとどまり、永遠の滅びへと向かっていく。イエスが行かれる所、すなわち父のみもとに彼らは行くことができない。」(ウィリアム・ヘンドリクセン)

2. _____ (23-24)

※ヨハネ3:13

「だれも天に上った者はいません。しかし天から下った者はいます。すなわち人の子です。」

※ヨハネ6:33, 38, 50-51, 57-58

「というのは、神のパンは、天から下って来て、世にいのちを与えるものだからです。」

「わたしが天から下って来たのは…」

「しかし、これは天から下って来たパンで、それを食べると死ぬことがないのです。わたしは、天から下って来た生けるパンです。…」

「生ける父がわたしを遣わし、わたしが父によって生きているように、わたしを食べる者も、わたしによって生きるのです。これは天から下って来たパンです。…」

※1ヨハネ5:19

「私たちは神からの者であり、世全体は悪い者の支配下にあることを知っています。」

※ヤコブ4:4

「貞操のない人たち。世を愛することは神に敵することであることがわからないのですか。世の友となりたいと思ったら、その人は自分を神の敵としているのです。」

※イザヤ59:2

「あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ。」

「罪とは本質的に神からの離反である。」(マルティン・ルター)

※ヨハネ3:3

「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ(原文そのままに訳せば、上から生まれなければ)、神の国を見るることはできません。」

※イザヤ45:18

「天を創造した方、すなわち神、地を形造り、これを仕上げた方、すなわちこれを堅く立てた方、これを荒漠としたものに創造せず、人の住みかにこれを形造った方、まことに、この主がこう仰せられる。「わたしが主である。ほかにはいない。」

※1ペテロ3:18

「キリストも一度罪のために死なれました。正しい方が悪い人々の身代わりとなつたのです。それは、肉においては死に渡され、靈においては生かされて、私たちを神のみもとに導くためでした。」

※ヨハネ17:14-16

「わたしは彼らにあなたのみことばを与えました。しかし、世は彼らを憎みました。わたしがこの世のものでないよう、彼らもこの世のものでないからです。彼らをこの世から取り去ってくださるようにというのではなく、悪い者から守ってくださるようにお願いします。わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではありません。」

3. _____(25-30)

※申命記8:14

「あなたの心が高ぶり、あなたの神、主を忘れる、そういうことがないように。」

※1ペテロ5:5

「…みな互いに謙遜を身に着けなさい。神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです。」

※マルコ15:39

「この方はまことに神の子であった」